



【財務】計算 | 商品売買（記帳方法）

問題 10分 5問 合格ライン 40点 (50点満点)

[メモを追加](#)[問題のトップに戻る](#)

- 100% +

問題 1 商品売買

次に示す損益計算書（売上総利益まで）の空欄A～Cに当てはまる最も適切な語句を答えなさい。

損益計算書

I	(ア)	XXX
II	(イ)	
1.	(ウ)	XXX
2.	(エ)	<u>XXX</u>
	合計	XXX
3.	(オ)	<u>XXX</u>
	(カ)	XXX

[△ 解説を隠す](#)

解答

学習を開始しましょう！

ワ	期首商品棚卸高
エ	当期商品仕入高
オ	期末商品棚卸高
カ	売上総利益

売上原価についての問題です。損益計算書について出題しました。

売上高から売上原価を差し引いた金額が売上総利益です。

$$\text{売上高} - \text{売上原価} = \text{売上総利益}$$

売上原価とは、販売した商品の原価をいいます。

個々の取引の売上原価は商品有高帳などで把握しますが、会計期間における売上原価は下記の計算式で求められます。

$$\text{期首商品棚卸高} + \text{当期商品仕入高} - \text{期末商品棚卸高} = \text{売上原価}$$

報告式の損益計算書においては、売上原価の内訳として上記の計算式と同様の情報が表示されます。

損益計算書（売上総利益まで）

損益計算書

I	売上高	XXX
II	売上原価	
1.	期首商品棚卸高	XXX
2.	当期商品仕入高	<u>XXX</u>
	合計	XXX
3.	期末商品棚卸高	<u>XXX</u>
	売上総利益	XXX

問題 2 記帳方法

次の設問の仕訳の空欄A～Cに当てはまる語句を答えなさい。

スタートガイド 1

〔設問〕

以下の資料に基づき、期中取引仕訳および決算整理仕訳を示しなさい。

1. 期首商品棚卸高は2,000千円であった。
2. 当期商品仕入高は30,000千円であった。
3. 当期の売上高は40,000千円であった。
4. 期末商品棚卸高は6,000千円であった。
5. 商品売買はすべて掛で行っている。
6. 商品売買の記帳方法として、3分法を採用している。

〔解答欄〕

1. 期中取引仕訳

- 商品仕入時

借方科目	金額	貸方科目	金額
ア	30,000	販売費	30,000

- 商品売上時

借方科目	金額	貸方科目	金額
販売費	40,000	イ	40,000

2. 決算整理仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額
ウ	2,000	エ	2,000
オ	6,000	カ	6,000

△ 解説を隠す

解答

ア	仕入
イ	売上
ウ	仕入
エ	繰越商品
オ	繰越商品
カ	仕入

商品売買の記帳方法についての問題です。3分法を出題しました。

3分法（3分割法）とは、商品売買の取引を仕入勘定、売上勘定、繰越商品勘定の3つの勘定を用いて記録する方法です。

（以下、単位：千円）

設問の仕訳は、下記のとおりです。

1. 期中取引仕訳

- 商品仕入時

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	30,000	販売費	30,000

- 商品売上時

借方科目	金額	貸方科目	金額
販売費	40,000	売上	40,000

2. 決算整理仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	2,000	繰越商品	2,000
繰越商品	6,000	仕入	6,000

問題 3 記帳方法

次の設問の仕訳の空欄ア～エに当てはまる語句を答えなさい。

(設問)

以下の資料に基づき、期中取引仕訳を示しなさい。

1. 期首商品棚卸高は2,000千円であった。
2. 当期商品仕入高は30,000千円であった。
3. 当期の売上高は40,000千円（販売した商品の原価は26,000千円）であった。
4. 期末商品棚卸高は6,000千円であった。
5. 商品売買はすべて掛で行っている。
6. 商品売買の記帳方法として、売上原価対立法を採用している。

(解答欄)

1. 期中取引仕訳

- 商品仕入時

借方科目	金額	貸方科目	金額
ア	30,000	買掛金	30,000

- 商品売上時

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	40,000	イ	40,000
ウ	26,000	エ	26,000

△ 解説を隠す

解答

ア	商品
イ	売上
ウ	売上原価
エ	商品

商品売買の記帳方法についての問題です。売上原価対立法を出題しました。

売上原価対立法は、商品の購入時は**商品**勘定（資産）で処理し、商品の販売時には、**売上**勘定（収益）で処理するとともに、販売した商品の原価（売上原価）を商品勘定から**売上原価**勘定（費用）に振り替える方法です。

（以下、単位：千円）

設問の仕訳は、下記のとおりです。

期中取引仕訳

- 商品仕入時

借方科目	金額	貸方科目	金額
商品	30,000	買掛金	30,000

- 商品売上時

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	40,000	売上	40,000
売上原価	26,000	商品	26,000

売上原価対立法によれば、商品勘定の残高はその時点の商品の帳簿棚卸高を表し、売上原価勘定は売上原価を表すことになります。期中の会計処理により期末在庫と売上原価が記帳されることから、3分法と異なり、**売上原価の計算のための決算整理を行う必要はありません。**

問題 4 記帳方法

次の設問の仕訳の空欄ア～ウに当てはまる語句を答えなさい。

〔設問〕

以下の資料に基づき、期中取引仕訳を示しなさい。

- 期首商品棚卸高は2,000千円であった。
- 当期商品仕入高は30,000千円であった。
- 当期の売上高は40,000千円（販売した商品の原価は26,000千円）であった。
- 期末商品棚卸高は6,000千円であった。
- 商品売買はすべて掛で行っている。
- 商品売買の記帳方法として、分記法を採用している。

〔解答欄〕

1. 期中取引仕訳

- 商品仕入時

借方科目	金額	貸方科目	金額
ア	30,000	買掛金	30,000

- 商品売上時

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	40,000	イ	26,000
		ウ	14,000

▲ 解説を隠す

解答

ア	商品
イ	商品
ウ	商品販売益

商品売買の記帳方法についての問題です。分記法を出題しました。

分記法は、商品の購入時は**商品勘定**（資産）で処理し、商品の販売時には、販売した商品の原価（売上原価）を商品勘定から減額するとともに、販売した商品の売価と原価との差額を**商品販売益**勘定（収益）に振り替える方法です。

（以下、単位：千円）

設問の仕訳は、下記のとおりです。

期中取引仕訳

- 商品仕入時

借方科目	金額	貸方科目	金額
商品	30,000	買掛金	30,000

- 商品売上時

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	40,000	商品	26,000
		商品販売益	14,000

分記法によれば、商品勘定の残高はその時点の商品の帳簿棚卸高を表し、商品販売益勘定は売上総利益を表すことになります。期中の会計処理により期末在庫と売上総利益が記帳されることから、3分法と異なり、**売上原価の計算のための決算整理を行う必要はありません。**

問題 5 記帳方法

次の文章を読み、正しい場合には○、誤っている場合には×を選びなさい。

商品売買の記帳方法が異なっても、取引や会計方針が同じであれば、最終的に作成される財務諸表は同じとなる。

▲ 解説を隠す

解答 : ○

記帳方法についての問題です。

商品売買の記帳方法には、商品の仕入や商品の売上などについてどのような勘定を設けて記録するかによって、いくつかの方法がありますが、記帳方法が異なっても、取引や会計方針が同じであれば、最終的に作成される財務諸表は同じものとなります。

間違いを報告する

◀ 問題のトップに戻る